



## 平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年2月9日

上場会社名 アルコニックス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3036 URL http://www.alconix.com  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 正木 英逸  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員財務本部長 (氏名) 宮崎 泰 TEL 03-3596-7400  
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月13日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	183,706	25.6	5,482	86.2	5,915	99.7	4,250	79.4
29年3月期第3四半期	146,252	△4.8	2,944	△5.3	2,961	△11.5	2,369	△47.4

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 4,655百万円 (ー%) 29年3月期第3四半期 333百万円 (△92.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	164.54	164.22
29年3月期第3四半期	91.95	91.91

当社は平成29年9月1日付で、当社普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行なっております。そのため当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	131,194	38,157	27.7
29年3月期	113,647	34,119	28.5

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 36,353百万円 29年3月期 32,378百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	ー	22.00	ー	22.00	44.00
30年3月期	ー	13.00	ー	ー	ー
30年3月期(予想)	ー	ー	ー	19.00	32.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

当社は平成29年9月1日付で、当社普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行なっております。そのため平成30年3月期(予想)の年間配当につきましては当該株式分割を考慮しております。また株式分割を考慮しない場合の平成30年3月期(予想)の年間配当は1株当たり64円に相当いたします。

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	243,000	20.3	7,000	67.9	7,400	70.0	5,300	71.9	205.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

平成30年3月期(予想)の1株当たり当期純利益につきましては、株式分割を考慮した額を記載しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、[添付資料] 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

30年3月期3Q	25,855,200株	29年3月期	25,788,000株
30年3月期3Q	961株	29年3月期	826株
30年3月期3Q	25,829,877株	29年3月期3Q	25,765,460株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料] 3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国では良好な雇用環境を背景に景気拡大が続き、欧州においても景気回復が継続いたしました。また中国においては個人消費や公共投資を中心に景気持ち直しの動きがみられました。

我が国経済は企業収益、雇用環境の改善が進む中で、堅調な設備投資並びに輸出が牽引し景気回復が継続いたしました。

当社グループを取巻く非鉄金属業界においては非鉄市況上昇と円安により事業環境が改善する一方、電装化・軽量化の進行が著しい自動車関連需要及びスマートフォン、タブレット端末向けをはじめとする電子材料分野の需要が堅調に推移いたしました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、半導体製造装置関連をはじめとして、国内外の製造子会社の業績が連結経営成績に大きく貢献するとともに、商社流通分野においても銅・アルミ原料、伸銅品、アルミ圧延品、スマートフォン、タブレット端末向け電子材料の取扱いが伸び、増収増益となりました。また、新たに連結子会社化した株式会社富士プレス（製造—金属加工事業）も連結業績に寄与いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における連結経営成績は、売上高183,706百万円（前年同期比25.6%増加）、営業利益5,482百万円（同86.2%増加）、経常利益5,915百万円（同99.7%増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益4,250百万円（同79.4%増加）となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメントの業績は次のとおりであります。また、各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

#### ・商社流通—電子機能材事業

スマートフォン、タブレット端末向け部材は、引続き堅調に推移いたしました。また、二次電池関連部材並びに環境関連部材の需要も底堅く、チタン・ニッケル製品は欧州市場向けを中心に堅調に推移いたしました。一方、レアメタル・レアアースにおいては、車載向け磁性材料、電子材料用途等で需要が順調に拡大すると同時に市況も回復基調となり、取扱いは堅調に推移いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は55,390百万円（前年同期比31.6%増加）、セグメント利益は1,181百万円（同73.0%増加）となりました。

#### ・商社流通—アルミ銅事業

自動車の電装化並びに軽量化の進行により、伸銅品並びにアルミ圧延品等の自動車関連部材の取扱いは引続き伸長いたしました。また、国内流通子会社各社も半導体材料、建設・住宅用資材、空調関連部材を中心に収益が拡大いたしました。一方、非鉄原料分野においては、アルミ・銅等の非鉄市況が堅調に推移したことにより、主力のアルミ再生塊、及び銅・アルミスクラップの取扱い増加が増益に寄与いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は101,357百万円（同15.6%増加）、セグメント利益は896百万円（同53.9%増加）となりました。

#### ・製造—装置材料事業

めっき材料においては北米の出荷が堅調に推移する一方、平成28年5月に竣工した中国の化成品製造ラインの本格稼働により、同拠点における出荷が大きく伸び、業績伸長に貢献いたしました。また、非破壊検査装置分野においては、大型の装置受注がなかったものの、自動車、鉄鋼業界向け探傷剤等の消耗品の出荷が増加した他、前年同期は低迷していた韓国、中国の製造子会社においても探傷剤を中心とした出荷が伸び業績に貢献いたしました。これにより同事業の収益は、のれん償却後で経常黒字に転換しました。

この結果、当セグメントにおける売上高は14,337百万円（同16.4%増加）、セグメント利益は635百万円（同496.9%増加）となりました。

#### ・製造—金属加工事業

チップマウンター向け研削加工部品の出荷は旺盛な実装機需要を背景に引続き好調に推移いたしました。また、自動車向け試作部品の受注も順調でした。一方、精密切削加工部品は半導体製造装置、有機EL製造装置及び、航空機部品向けが好調に推移し、前年同期で減益要因となった小ロット、短納期対応による製造原価増に対しては生産効率の改善等に取り組んだ結果、収益が大きく改善いたしました。なお、新たに連結子会社となった株式会社富士プレスは自動車向け精密プレス部品の出荷が当初の想定を上回り、連結業績に貢献いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は15,138百万円（同121.9%増加）、セグメント利益は3,203百万円（同100.9%増加）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ①財政状態

##### a. 流動資産

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は94,038百万円であり、前連結会計年度末比11,714百万円の増加となりました。主な内訳は、受取手形及び売掛金の増加3,327百万円、たな卸資産の増加3,702百万円、並びに現金及び預金の増加3,636百万円であります。

## b. 固定資産

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は37,156百万円であり、前連結会計年度末比5,831百万円の増加となりました。主な内訳は、株式会社富士プレスの連結子会社化に伴う有形固定資産の増加3,603百万円、及び投資その他の資産の増加2,676百万円であります。

## c. 流動負債

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は73,705百万円であり、前連結会計年度末比10,685百万円の増加となりました。主な内訳は支払手形及び買掛金の増加721百万円、短期借入金の増加8,293百万円、及び1年以内返済予定長期借入金の増加91百万円であります。

## d. 固定負債

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は19,331百万円であり、前連結会計年度末比2,822百万円の増加となりました。主な内訳は長期借入金の増加2,312百万円であります。

## e. 純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は38,157百万円であり、前連結会計年度末比4,038百万円の増加となりました。主な内訳は新株予約権の行使に伴い、資本金並びに資本準備金がそれぞれ28百万円の増加、利益剰余金の増加3,630百万円、及び為替換算調整勘定の減少136百万円であります。

## ②経営成績

## a. 売上高

売上高の主な増加要因は、当社を含むグループ各社のほとんどで増収を確保したことであり、取扱品別で見ると、商社流通では、銅・アルミスクラップ等の非鉄原料、スマートフォン・タブレット端末向け電子材料、タングステン、磁性材用等のレアアース、製造ではめっき材料、精密切削加工部品並びに研削加工部品等の売上が増加いたしました。これに加えて株式会社富士プレスを連結子会社化したことにより、同社の自動車向け精密プレス部品の売上が増収に寄与いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は、前年同期比25.6%増加の183,706百万円となりました。

## b. 売上総利益

製造子会社を中心とした当社グループ各社における増収効果、及び新たに加わった株式会社富士プレスの収益が寄与し、当第3四半期連結累計期間における売上総利益は前年同期比30.9%増加の14,025百万円となりました。

## c. 販売費及び一般管理費

株式会社富士プレスの連結開始により、当第3四半期連結累計期間における販売費及び一般管理費は前年同期比10.0%増加の8,542百万円となりました。

## d. 営業利益

上記の結果、当第3四半期連結累計期間における営業利益は前年同期比86.2%増加の5,482百万円となりました。

## e. 営業外収益、営業外費用

受取配当金の増加等により、営業外収支（営業外収益－営業外費用）は432百万円の収入超となりました（前年同期は17百万円の収入超）。

## f. 経常利益

上記の結果、当第3四半期連結累計期間における経常利益は前年同期比99.7%増加の5,915百万円となりました。

## g. 特別利益、特別損失

投資有価証券売却益、及び新株予約権戻入益等の特別利益30百万円を計上する一方、会員権売却損等の特別損失20百万円を計上いたしました。

## h. 親会社株主に帰属する四半期純利益

税金等調整前四半期純利益5,924百万円から、法人税等1,564百万円、連結子会社10社における非支配株主に帰属する四半期純利益109百万円を差引き、当第3四半期連結累計期間における親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比79.4%増加の4,250百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間における業績を鑑みて、平成29年11月8日に開示した内容から売上高、営業利益、経常利益、当期純利益をそれぞれ修正しております。また、当連結会計年度業績を勘案し、平成30年3月期配当予想も修正いたしました。詳細につきましては本日開示いたしました「業績予想並びに配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	16,885	20,522
受取手形及び売掛金	42,821	46,149
商品及び製品	17,075	19,979
仕掛品	1,612	2,214
原材料及び貯蔵品	756	952
その他	3,332	4,387
貸倒引当金	△160	△167
流動資産合計	82,323	94,038
固定資産		
有形固定資産	10,601	14,205
無形固定資産		
のれん	3,660	3,612
その他	4,731	4,331
無形固定資産合計	8,391	7,943
投資その他の資産	12,331	15,007
固定資産合計	31,324	37,156
資産合計	113,647	131,194
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	32,728	33,449
短期借入金	21,841	30,135
1年内返済予定の長期借入金	4,266	4,358
1年内償還予定の社債	274	249
未払法人税等	699	1,407
賞与引当金	518	471
その他	2,690	3,634
流動負債合計	63,020	73,705
固定負債		
社債	825	675
長期借入金	10,883	13,195
役員退職慰労引当金	438	847
退職給付に係る負債	527	569
長期未払金	49	49
その他	3,785	3,994
固定負債合計	16,508	19,331
負債合計	79,528	93,037

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,924	2,953
資本剰余金	1,946	1,975
利益剰余金	22,981	26,612
自己株式	△0	△0
株主資本合計	27,853	31,539
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,227	1,725
繰延ヘッジ損益	△0	△74
為替換算調整勘定	3,298	3,161
その他の包括利益累計額合計	4,525	4,813
新株予約権	21	2
非支配株主持分	1,718	1,801
純資産合計	34,119	38,157
負債純資産合計	113,647	131,194

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	146,252	183,706
売上原価	135,541	169,680
売上総利益	10,710	14,025
販売費及び一般管理費	7,766	8,542
営業利益	2,944	5,482
営業外収益		
受取利息	26	50
仕入割引	10	10
受取配当金	196	255
為替差益	—	8
不動産賃貸収入	61	64
持分法による投資利益	308	298
屑売却益	17	177
その他	73	96
営業外収益合計	695	962
営業外費用		
支払利息	246	369
売上割引	5	7
為替差損	324	—
手形売却損	17	16
不動産賃貸原価	10	14
その他	72	122
営業外費用合計	678	530
経常利益	2,961	5,915
特別利益		
固定資産売却益	9	0
新株予約権戻入益	3	12
投資有価証券売却益	118	12
助成金収入	3	3
その他	—	1
特別利益合計	134	30
特別損失		
固定資産売却損	0	4
固定資産除却損	0	7
投資有価証券評価損	—	2
会員権売却損	—	6
その他	—	0
特別損失合計	0	20
税金等調整前四半期純利益	3,095	5,924
法人税等	819	1,564
過年度法人税等戻入額	△168	—
四半期純利益	2,445	4,359
非支配株主に帰属する四半期純利益	76	109
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,369	4,250

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益	2,445	4,359
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	756	483
繰延ヘッジ損益	68	△73
為替換算調整勘定	△2,416	△164
持分法適用会社に対する持分相当額	△520	49
その他の包括利益合計	△2,111	295
四半期包括利益	333	4,655
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	198	4,538
非支配株主に係る四半期包括利益	135	117

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算) 税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	商社流通		製造		
	電子機能材	アルミ銅	装置材料	金属加工	
売上高					
外部顧客に対する売上高	40,078	87,125	12,304	6,744	146,252
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,009	532	16	78	2,636
計	42,087	87,658	12,321	6,822	148,889
セグメント利益	682	582	106	1,594	2,966

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,966
セグメント間取引消去	△4
四半期連結損益計算書の経常利益	2,961

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	商社流通		製造		
	電子機能材	アルミ銅	装置材料	金属加工	
売上高					
外部顧客に対する売上高	53,538	100,982	14,251	14,933	183,706
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,852	374	85	204	2,517
計	55,390	101,357	14,337	15,138	186,223
セグメント利益	1,181	896	635	3,203	5,916

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、株式会社富士プレス及び株式会社サンナ工業の株式を取得し、新たに連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は「金属加工事業」において8,027百万円増加しております。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,916
セグメント間取引消去	△1
四半期連結損益計算書の経常利益	5,915

## (重要な後発事象)

## (共通支配下の取引等)

当社の中間持株会社であるアルコニックス・フジ株式会社と同社の連結子会社である株式会社富士プレスは、平成30年1月1日を合併期日とする、株式会社富士プレスを存続会社とした吸収合併を実施し、アルコニックス・フジ株式会社は消滅いたしました。またこれに伴い、株式会社富士プレスは当社に対し同社株式5,200株を交付し、当社の連結子会社となりました。

## 1. 取引の概要

## (1) 対象となった事業の名称及びその事業の内容

事業の名称：アルコニックス・フジ株式会社（当社連結子会社）、株式会社富士プレス（当社連結子会社）、及び株式会社サンナ工業（当社連結子会社）の製造セグメントにおける金属加工事業

事業の内容：アルコニックス・フジ株式会社は、金属プレス製品の加工販売、金属並びに合成部品の加工、プレス機械並びに金型製造機械の販売、各種機械並びに器具部品の製造及び販売等、これらに附帯する一切の事業を行っております。また、株式会社富士プレスは、自動車向け精密プレス部品、及び機械部品の製造並びに販売等、これらに附帯する一切の事業を行っております。なお、株式会社サンナ工業は株式会社富士プレスが製造する金属プレス部品の検査工程を専門に請け負っております。

## (2) 企業結合日

平成30年1月1日

## (3) 企業結合の法的形式

株式会社富士プレスを存続会社とする吸収合併方式とし、アルコニックス・フジ株式会社並びに株式会社サンナ工業は消滅いたしました。

## (4) 結合後企業の名称

株式会社富士プレス

## (5) その他取引の概要に関する事項

当社の中間持株会社として設立したアルコニックス・フジ株式会社は平成29年4月5日に株式会社富士プレスの全株式を取得し、連結子会社といたしました。連結子会社化後の当社グループによる同社の運営は順調に推移し、また同社の取引先においても、当社グループの連結子会社としての認識が浸透したことから、株式会社富士プレスを存続会社とするアルコニックス・フジ株式会社との吸収合併を行いました。なお合併に際して、当該中間持株会社の連結子会社であった株式会社サンナ工業も併せて吸収合併いたしました。

## 2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）、及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日）に基づき、共通支配下の取引として処理する予定であります。